

「自動じゃないの」の声あり（笑）

昨年度からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定校となり、自然科学科では、私等の考えもしなかった高度の教育が実施されています。私は、今の桃高のお上品さと高い学力を残しながら公立高校らしいものを残してほしい。それが地域との温かいつながりにも結びつくと思います。



司会

ピン高のピンが一番のピンになってきたなぁと感じますね（笑）

和田さんは地域における生徒の気質の変遷をみておられると思いますが…

和田

大手筋は伏見では最大の繁華街で、お客さんは大勢来ていただけていますが、いつの間にか制服が変わっているなぁと気につくことがあるくらいで、特別に変遷といったものを感じることはありません。でも、このごろの生徒さんは大人しいのではないのでしょうか。昔に比べて…

司会

僕等のときは、ちょっと喫茶店に入っても、とやかく言われることがなかった。（笑）

和田

私の在学中は標準服でしたが、標準服を着るのは入学式と卒業式くらいで、自由な服装をしていました。スカートは黒かったらいいと言われてましたけどね。（笑）とんでもない服装をして、「ピン高」といわれ一番学力が低くて、とんでもないころの生徒やったんですね。（笑い）

司会

今も教室（和田さんが主宰する料理教室）に桃高卒業生がこられますか。

和田

いや、たまに買い物には来てくれますね。お母さんと一緒にとかね。

司会

川原さんはお子さんが3人も桃山高校。一番下のお子さんが在学中ですか。

川原



上の子のときは自然科学科がなくて、制服もグレーでした。次女のときは自然科学科ができて、制服も変わりましたし、学校の雰囲気が変わりましたね。まじめに勉強されていますね。

私は、中学3年まで中京区に住んでいて、伏見に引っ越したときは、ここが本当に京都市？ええ！と思いました。田んぼもあるし。（笑）

司会

佐々木さんと正反対ですね。

川原

すごいカルチャーショックやってね。中学は半年ほどでお友達はできなかったのですが、高校ではお友達もでき、今でもお付き合いが続いています。

司会

自分のお子さんを見て、自分の学生時代と照らし、感じることがありますか。

川原

私は父子家庭で、買い物など家事に追われ部活なんかはできなかったんですよ。娘達は部活やって勉強して高校生活を謳歌している。うらやましいなぁと思う反面、良い時代になっ

たなぁと思いました。

司会

鈴鹿さんは生徒会長として生徒会活動を通じて感じられたことをお聞かせください。

鈴鹿

生徒会の運営は、先生のご指導を受けながら良い仲間がいたので務められたと思います。新入生歓迎会は生徒会主導で行いましたが、生徒指導の先生の承認を受けなければならぬので同じことのような…（笑）でも、楽しくさせていただきました。ただ残念なことは1年生の時に体育館が焼失したことです。翌々年には新しい体育館が完成し卒業式ができました。

竹中

商売させていただいていると伏見では先輩だらけですし、いろんなところで大変お世話になっている。その意味では非常に暖かいものを感じております。先生方の会食にお使いいただくこともあり、何度か同席させていただき、いろんなご苦労話を聞かせていただくこともありました。（竹中氏は清和荘主人）

部活は人生にどんな影響を与えたか

松下

自分自身振り返って、学校ではクラブしかやってこなかった感じで、そんなにいろんな深い話があったんか。と思います。先輩達がいろんな歴史を築いていただいたから私達が何事もなく高校生活を送れたんやなぁと思いました。

司会

ブラバンをやりて学校に来てたということですか。（笑）片山さんの野球をやりて来てたということと同じですか。（笑）

松下

そうです。中学から吹奏楽部に入っていました。毎年、呉竹会館での桃高吹奏楽部定期演奏会に行ったんですが、一般の方も多く毎回満員なんです。私も入学したら絶対吹奏楽部に入ろうと思っていました。



桃高吹奏楽部の練習は厳しくて、早朝練習、放課後は夜遅くまで、といった毎日で、家に帰ってもクタクタ、ご飯を食べて寝ると言った毎日で、（家では）勉強は全くしなかった。特に英語は嫌いで成績は最悪。担任の英語の先生は厳しくて、終いには「クラブに来るな」と言われてしまいました。（笑）先生やクラブの役員の友達に謝りに回り、誓約書を書かされて（笑）復帰させてもらった。それから練習の音を聞きながら勉強するという毎日でした。

片山

私も野球一本で、勉強する時間がなかったですね。よく卒業させてもらえたなぁと思います。

佐々木

吹奏楽部といえば、今は116人とお聞きしましたが、私等のときは10人位だったと思います。でも入学式で演奏され、学生がああいう楽器を演奏することにびっくりしましたよ。正にカルチャーショックでしたね。（伏見に来るまでは）音楽教室のオルガンくらいしか知らなかったものですから…（笑）

玉井

軟式野球は硬式野球に比べ人数も少なかったのがやりがいがありました。軟式は弱いのが伝統で1勝できたら喜んでました。（笑）

司会

私も実は昔から弱いと思っていました。(笑)

中村さん(副会長)によると、現在の軟式野球部は府内で7校しかなくて、公立高校は桃高だけだそうです。これは勝ち負けだけではなく、続けて出場していることが重要で、桃山高校の伝統のひとつだと思います。軟式野球の皆さん失礼しました。(笑)

自分自身のこれまでの人生で、クラブ活動の体験が影響していることもたくさんあると思いますが。

玉井

これからの人生で人間関係のあり方が重要な要素を占めると思います。人間関係は学校生活の中で身に付けていくものだと思いますが、クラスだけでは不十分で、部活をやって、円滑な関係の作り方を学ぶことができ、自分自身、対人関係が上手くなったと感じています。

平田

やはりね。勉強するだけでなく部活することによってね、先輩後輩の絆を深めると同時に、お互いに自由に言葉を交わすことは素晴らしいことやと思います。自分が仰ぎ見る先輩を慕って勉強(努力)する。先輩は下級生を指導する喜びがあると思います。

アメリカや中国に堂々と物言える人材を育てよ!

司会

名物先生というか、記憶に残っている先生はいかがでしょうか。

石村

桃高硬式野球部に盛山先生という方が居られ、盛山先生のもとで野球をした人は皆んな京都の高等学校の指導者になっているんです。盛山先生の指導力はものすごいんですね。(笑)

鈴鹿



卒業の年に担任された数学の椿先生ですね。私は大先生と言ってました。その先生が卒業式の最後のホームルームで

$$\frac{d \text{人生}}{dt} = \text{努力} \quad \int_{t_1}^{t_2} \text{人生} dt = \text{平凡}$$

を黒板に書かれ、「人生を時間で微分すると、一瞬一瞬努力しなさい。また、人生を時間で積分すれば、いいときや悪いときがあるが、生きて死ぬまで平凡が一番い〜の」という意味を教えてくださいました。とってもインパクトがあり、忘れられません。座右の銘にしています。

和田

クラスの担任でもなかったんですが、ポン中先生のお宅にお伺いしたことがあるんです。(フランス革命の話された?(笑)の声あり。)されたような気がします。(笑)お嬢さんがお二人居られて、テレビ番組は「自然の王国」と何とかしか見せないと言った。非常に信念のある人でしたね。

小学校、中学校はまだ子供で、高校生になるとなんとなく世間が見えてきますやん。そこでどんな大人に出会うかで、次が変わるような気がしています。桃高の雰囲気とか、全体に持っている気質とか、代々クラブや生徒会に継承されているものとか、そういう風土の中に居させていただいたことは非常に良かったと思います。

竹中

地学の高畑先生ですね。卒業してから10年目と20年目に同窓会をしまして、先生に来ていただいた。先生は、いつもハーモニカを吹く場をこしらえないと機嫌が悪い。(笑)高

畑先生の後任が村山先生で、地学は後任者に引き継ぎながら伝統をつないでくださっています。

司会

いつでもお名前が挙がる先生方の話が出ましたが、余程インパクトのある先生ですね。

お若い松下さんはどうですか。

松下

今出られた先生以外であれば(笑)安原先生ですね。高校生の小さな採め事まで聞いてくださった。内緒でバイトしていて先輩からお叱りを受けたときのことで、(先生が)練習の時間を削ってミーティングさせ、自分達で考えるようにし向けてくださった。決して放ったらかさない、という姿勢で根気よくご指導いただきました。

玉井

大学受験の直前までご指導いただきました。浪人したのですが、そのときも悩んで桃高に行き、担任の先生や顧問の先生にご指導いただきました。

司会

こんなに先生にお世話になったと話が出てますが、石村先生としてはいかがですか。

石村

当時の先生方は今の先生と違って、大体大まかなんです。当時の先生は、個性があって、それを生徒が認めているところがあった。今なら問題になることもあるかも知れないのですが、いい時代だったんですね。

片山

審判させていただいて思うんですが、例えば、アウトかセーフか微妙なジャッジの時、(今の選手は)先の損得を考えるのか、素直に引き下がってしまいます。「今のはセーフです。」の一言があれば、審判も「今のジャッジで良かったか」と反省し、審判技術の向上につながります。自分が正しいと思うことは口に出す。そして(ルールに従って)引き下がる。(笑)自分の思いが言える人材を育てていかないと、アメリカ大統領や中国にも(対等に)物が言える人材が育たないと思うんです。



佐々木

桃高3年の時、解析や物理が不得手な私に、担当の先生が別の科目の内職をしなさいと言われました。40年間私立大学で心理学を教えてきましたが、卒業論文にはかなり統計を駆使したものが多いんですね。しかし、中には数学が苦手な学生もいる。君は何ができるのと聞いたらパーセントなら使えます、と言う。それならパーセントで分析しろと言ったら、なかなか良い論文を提出してきた例もある。不得手なことを無理にやらせてもあかん。得意なことを伸ばすほうがよっぽど良い。一般化はできないかも知れませんが、そういう教育も必要ではないかと思いますね。

桃山は「桃」やなしに「柿」ですか

司会

鈴鹿さん。在校中お世話になった方は、芝井さんだそうですが…。

鈴鹿

パンやジュースを売っている校門前の店です。テニスクラブの練習後、あそこで休憩するのが楽しみでした。その下の川勝さんも月曜日には「少年ジャンプ」を買ったりしていました。両方とも今も(店を)やっておられてうれしいです。

司会

食堂の話が出てきませんが…

竹中

放送部は、先輩達は昼食を食べながら放送できるんですが、1年生はできない。そのために、1時間目が終わると食券を買って、2時間目が終わると昼食をとり、放送室に行くことが多かったですね。食堂で今日のおかずは？と聞いて、それにしといて。と結構親しくなりご飯の盛りが少し多くなったり…。(笑)

平田

(席上、食堂の値段談義が進んでいる中で、ペーパーを取り出して)これね、桃高創立1周年記念事業のときの食堂のメニューですよ。

司会 (メニューを受け取って)

ほーッ。カレーライスが1合につき35円ですね。

平田

外食券が要ったんです。

司会

ランチ、ミルクまたはコーヒーつき50円、カフェ、汁粉30円、きつねうどん20円、和菓子煎茶つき、えらいハイカラやなあ(笑)20円(中略)、柿が10ヶ10円(笑)、前回の座談会にも柿の話が出ていましたが、(笑)桃山は桃やなしに柿ですか。(笑)

平田

商業科があったから(実習として)これをやったんですね。

司会

このメニューの裏には「当日の食事は質と量が多く値段が安い桃高食堂へ」と書いてある。(爆笑)玉井さんや松下さん、最近の食堂は？

玉井

毎日日替わり定食があって、その数が限られ食券を買うのに必死でした。

松下

カツ丼を食べたんですが、余り美味くないんですね。(笑)でも、カツの上にジュルジュルの卵汁で綴じてあって癖になるんですね。(笑)カレーうどんを頼んだら、素うどんにカレーライスのルーがポンと入れてある。(笑)

「昔からそうや」の声あり(爆笑)

司会

僕もカレーライスを頼んだら、ポロッと肉が入ったら、調理のおじさんが「しもた！」という。「しもた！とは何事か！」(爆笑)と思ったことがあります。

ここでもう一度、お一人ずつ一言お願いします。

懐かしのレンガ校舎の階段教室

竹中

木造平屋の2号館というのがありましたね。廊下の床を足で踏み破ったやつがいましたが、それくらい古かったですね。私が入ったときは、4号館が2年目で、グランド側の校舎ができてピカピカやった。

司会

レンガ造りの棟はシンボリックな存在だったんでしょうか。

石村



そうですね。その前の木造校舎は室戸台風で壊れたそうですね。洛陽などは全部レンガ造りになったんですが、当時は府の予算が逼迫し、桃高は一棟だけになった。差をつけられたんですね。

レンガ造りの校舎には階段教室があり

ましたね。僕は(教壇から)生徒さんを見上げるほうで、やりやすかったですね。さすが旧制中学の校舎やなあと思いました。講堂は残すべきだったんですね。

竹中

古い写真を見ると国旗掲揚台がありましたね。当時のもので残っているのは正門の柱とその東側の白壁の蔵(倉庫)だけということになってます。

司会

平田さんは、昭和36年の桃高最初の名簿から平成10年までの全ての名簿の編纂に関わられたそうですが…。

平田

いまや4万人近い会員がいる。それを把握するということは、最近の個人情報保護という問題があって難しいですね。よき先輩やよき後輩が自由に交流するためには名簿は欠かせないと思います。どなたかが情熱を持って編纂していただけるなら、100周年とかの区切りに発行していただくようお願いしますが、難しそうですね。

司会

佐々木さん、本来もらえる精勤賞がもらえなかったとか。

佐々木

1日休みは皆勤ではなく精勤。1日は風邪でしたが、それにプラスして「君の名は」の映画を見に行きたくて5時間目の授業をサボったから(精勤賞が)もらえなかった。(笑)3年担任の(優しかった)吹田先生から、「精勤賞をもらうことが良かったか、岸恵子の「君の名は」を見た方が良かったか、ですね。」と言われた。(爆笑)

片山

粕谷先生や、よくドツかれた小泉先生など両極端ですが、桃山高校で教わったことが柱になっているし、今も辛いとき、苦しいときにも励みになる。良い勉強になりました。

司会

片山さんは、硬式野球部のOB会会長ですね。

片山

美馬、西谷両会長さんが基礎を作っていただき、その上に乗りかかっているだけですが、続いていることがいいかなと思っています。

石村

私は教育実習に城南高校へいったのですが、桃高出身の森田校長(国文学概論という著書があった。)が、先生ご自身も参加して懇親会をしていただいた。桃高に対する思いが強く、何かと指導助言をいただいた。私自身も桃高出身者とわかれば見方が違いますね。若い皆さんも、どんどん(先輩を)利用されたいと思います。

和田

桃高で得たものは、私の考え方の基本が出来た4年間でした。先輩や後輩やといわれると懐かしいですね。地元といえば、最近は相当遠くから入ってこられるようですが、公立高校として地元の学校だという顔も必要だと思いますね。

川原

今の先生は、担任以外の先生でも生徒に対して真剣に接しておられ、いろいろご指導いただいております。

鈴鹿

同窓会と言う言葉が好きで、同窓の友達に会うと、いい意味でのその時代に戻る。

今回、世代の違う方々と話し合うことができて、とにかく桃高を卒業してよかったなあと思いますし、私の娘もそう



思って卒業し、生活して行ってほしいですね。

本当に高校時代の友達がいって良かったなあと思います。

竹中

今の桃高は、急激に変わっています。学力もそうですし、遠くから通学する生徒が増えてきます。反面、学校の前に住んでいても入れないという状況もできています。伝統のある学校のOB会は、良い意味で、もっとうるさくなっているんじゃないでしょうか。それにはOBの皆さんがもっと学校に来て、実態を把握していただく必要があります。必要ならば桃山同窓会をツールとして行政当局に要望することも考えては。と思います。

松下

桃高を卒業して龍谷大学に行って、その後福祉関係の事務をしています。先日、吹奏楽部の同級生数人が集まって突然合宿に行きました。合宿中の後輩を見ていると、私も本当に充実し、毎日真剣に高校生活を送っていたんだなあ、と思いました。クラブ活動は後の人生に重要な影響があり、後輩もしっかりやってほしいなあ、と思いました。

玉井



高校では感謝の気持を持つことを学んだと思います。特に部活をやっているとき、自分達だけがやっているのではなく、いろんな意味で多くの人の支えがあって出来ているという感謝の気持が芽生えてきました。今、(東京の) 大学に行って、

単身で生活していますが、親に経済的な負担をかけ、面倒を見てもらっており感謝しています。

司会

ありがとうございました。山仲会長にお越しいただき、これまで聞き役をお務めいただきました。最後に一言ご感想をお願いし、締めとさせていただきます。

山仲

楽しく聞かせていただきました。先生のことや校舎のこと、旧制中学から新制高校への過渡期の問題などに加え、新しい話がどんどん出てきて面白い座談会ができたと思います。「在校生の座談会レポート」のためにご出席をお願いした在校生の方々には、お休みに関わらずご参加いただいたことと、編集委員の皆様のご努力に感謝し、締めといたします。ありがとうございました。

平成23年7月30日 14:00~16:00 清和荘にて

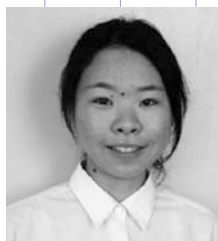
在校生座談会レポート

**在校生 (生徒会) が
座談会に同席し何を感じたか。**



会長 2年生 檜垣友利

地域の方々と関わることは、勉強だけでなく人間としての成長を学ぶことができるという言葉は本当に素晴らしいと思います。皆さんが「桃高にいて良かった」「桃高を卒業してよかった」とおっしゃったように、私もそう言えるように現在の桃山高校での生活をもっと充実できるように生徒会としても活動していきたいと思いました。



副会長 2年生 小倉弓奈

今私が通っている桃山高校と昔の桃山高校で、一番異なっていると感じたことは学力への執着心だと思いました。私達は進学校というためか「学力」をつけることに重点を置いているように強く感じてしまう。

確かに、「豊かな人間を育てる」ということを口では言ってくれているけれども、どうしても今成績や学力で順位がつけられてしまっているような気がします。



会計 1年生 山本絢美

「今の子供は先の損得を考えて行動する。ズバツと行動しない。」という言葉が印象に残りました。全く周りを気にしないというのもよくないと思いますが、思ったらすぐに行動してみるというのも、忘れずにいこうと思いました。

**会報部会 坪内達雄相談役 (桃高1回卒)
の一口コメント**

桃高に南接する俗称「桃山善光寺」に母校初代の校長と教頭のお墓が有るのをご存知だろうか？ 田中徹郎校長と下山敏郎教頭のお墓が並んでいる。

田中先生は元桃山高女の数学の教諭、下山先生は元桃山中学の英語の教諭であった。



そのためか、時折桃女卒業生や桃中卒業生がお参りすると聞く。

お二人は日々、桃高生の元気な声を聞いておられる。そして桃高の歩みを見守っておられると確信する。(合掌)

閑話休題

桃山同窓会に集う各校の校章

